

ドラグ・ショベルの墜落による下敷き

業種：建築工事業
被災：死亡1名

厚生労働省安全課

1. 災害発生状況

本災害は住宅建設工事現場において、建設作業に使用したドラグ・ショベルを作業終了後、木製の道板を使用してドラグ・ショベルをトラックに積み込む際、ドラグ・ショベルが道板から転落し、トラックの近くで片付け作業をしていた被災者がドラグ・ショベルの下敷きになったものである。

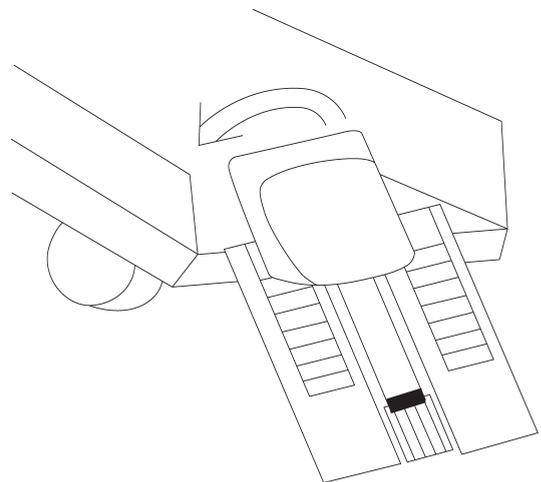
被害者らは、災害の発生した住宅建設工事において、上水道工事、浄化槽の設置工事及び排水工事等の水回りに係る工事を請け負っていた。災害発生日は引き渡し2日前であり、すでに住宅本体は完成しており、被災者らが請け負っていた住宅内部における配管等工事、浄化槽の設置及び排水工事も終了していた。

災害発生日、被災者らは浄化槽から敷地外の水路までの排水管の配管と配管の途中に設けられた4箇所の溜め枘の設置工事を実施した。これらに伴う掘削に使用するため、災害発生現場にドラグ・ショベルが持ち込まれていた。

当初の計画では、当日の作業を終了後、ドラグ・ショベルを会社へ持ち帰ることはなかったが、施主が新居に入居するために家財道具等運び始めており、翌日以降において荷物の搬入がスムーズに行えるようにするため、ドラグ・ショベルを急ぎ持ち帰ることとなった。この事業場には、車両系建設機械を移送するための専用車両及び専用の道板があり、通常、ドラグ・ショベルの移送のためにこれらが使用されてきた。しかし、災害発生日はドラグ・ショベルを事業場に搬送する計画ではなかったために、専用車両及び専用の道板は工事現場に持ち込まれていなかっ

た。そのため、コンクリートの型枠用に持ってきた板(1.59m×17cm, 1.45m×17cm)を道板として使用することによって、ドラグ・ショベルを材料及び工事用道具等の荷物運搬に用いていたトラックに積み込むこととした。

ドラグ・ショベルのオペレーターはトラックの荷台と地面との間に2枚の板を道板として設置した。これら2枚の板は、長さが不揃いであったため段違いとなっており、かつ、こう配(33度, 31度)が急で固定されていなかった。オペレーターはドラグ・ショベルをトラックの荷台に積むために前進させ、ドラグ・ショベルのキャタピラが地面を離れた際、上部旋回体を回転させバケットを後ろ向きに向けた。その後、バケットで地面を押しながら道板の上を上らせた。トラックの荷台にドラグ・ショベルが上りきる寸前に、ドラグ・ショベルのバランスが崩れ、トラックの助手席側に転落した。この際、トラックの助手席側において



災害事例

復し、自力でタンク内部より脱出することができた。被災者は数日間の入院後、後遺症もなく順調に回復した。

なお、現場には酸素欠乏危険作業主任者は選任されておらず、非常時の場合に備えた空気呼吸器等もなかった。

2. 災害発生原因

労働者に酸素欠乏危険場所に隣接する場所で作業を行わせるに当たり、酸素欠乏危険場所に立ち入ることを禁止し、かつ、その旨を見やすい箇所に表示していなかったこと。

台船底部タンク内部が酸素欠乏危険場所に該当し、その内部での作業も予定されているにも関わらず、酸素欠乏作業主任者が選任されていなかったこと。

非常時の場合に労働者を待避、救出するための空気呼吸器等の避難用具が備えられていなかったこと。

3. 再発防止対策

酸素欠乏危険場所に隣接する場所で作業を行わせる場合には、酸素欠乏危険場所への立ち入りを禁止し、その旨を見やすい箇所に表示すること。

酸素欠乏危険場所に労働者が誤って入る可能性がある場合には、酸素欠乏危険場所の酸素濃度を測定し、安全を確認しておくこと。

酸素欠乏危険作業を行う場合には、酸素欠乏危険作業主任者を選任しておく必要があること。

万一来備え、救急用の空気呼吸器等を備えておくこと。

酸素欠乏危険作業を行う者に対し、酸素欠乏症の危険性及び災害防止対策についてあらかじめ教育を行うこと。なお、酸素欠乏危険場所に誤って入る可能性がある者に対してもこれらの教育を行うことが望ましいこと。

小型ドラグ・ショベルで荷をつり旋回中に横転

業種：建設工事業
被災：死亡1名

厚生労働省建設安全対策室

1. 災害発生状況

この災害は、小学校プール建設工事において、バケット容量 0.07m^3 の小型のドラグ・ショベルで総重量 656kg のU字溝をつり上げて旋回したところ、ドラグ・ショベルが横転し、投げ出された運転者が斜面長 9m の崖下まで転落したものである。

災害発生当日、屋外プールの側溝となるU字溝を布設するため、U字溝と碎石を不整地運搬車でプール建設場所まで運んだ。運搬してきたU字溝を卸すために、不整地運搬車の運転者がU字溝8本（1本あたりの大きさは長さ 200cm ×

幅 21cm ×高さ 19cm で、重量 82kg 、8本の総重量 656kg を一纏めにして玉掛けをした。被災者が運転するバケット容量 0.07m^3 の小型ドラグ・ショベルでこの8本のU字溝をつり上げ、右旋回し、約 90 度回ったところで、ドラグ・ショベルが横転した。ドラグ・ショベルは、 1.25m 下の小段まで転落し止まったが、被災者は運転席から投げ出され幅 4m の小段を飛び越えさらに斜面長 9m の崖下まで転落した。

ドラグ・ショベルは、総体重量 $2,090\text{kg}$ で、バケットは、長さ 48cm ×幅 42cm ×高さ 35cm の大きさと容量は 0.07m^3 であった。

